

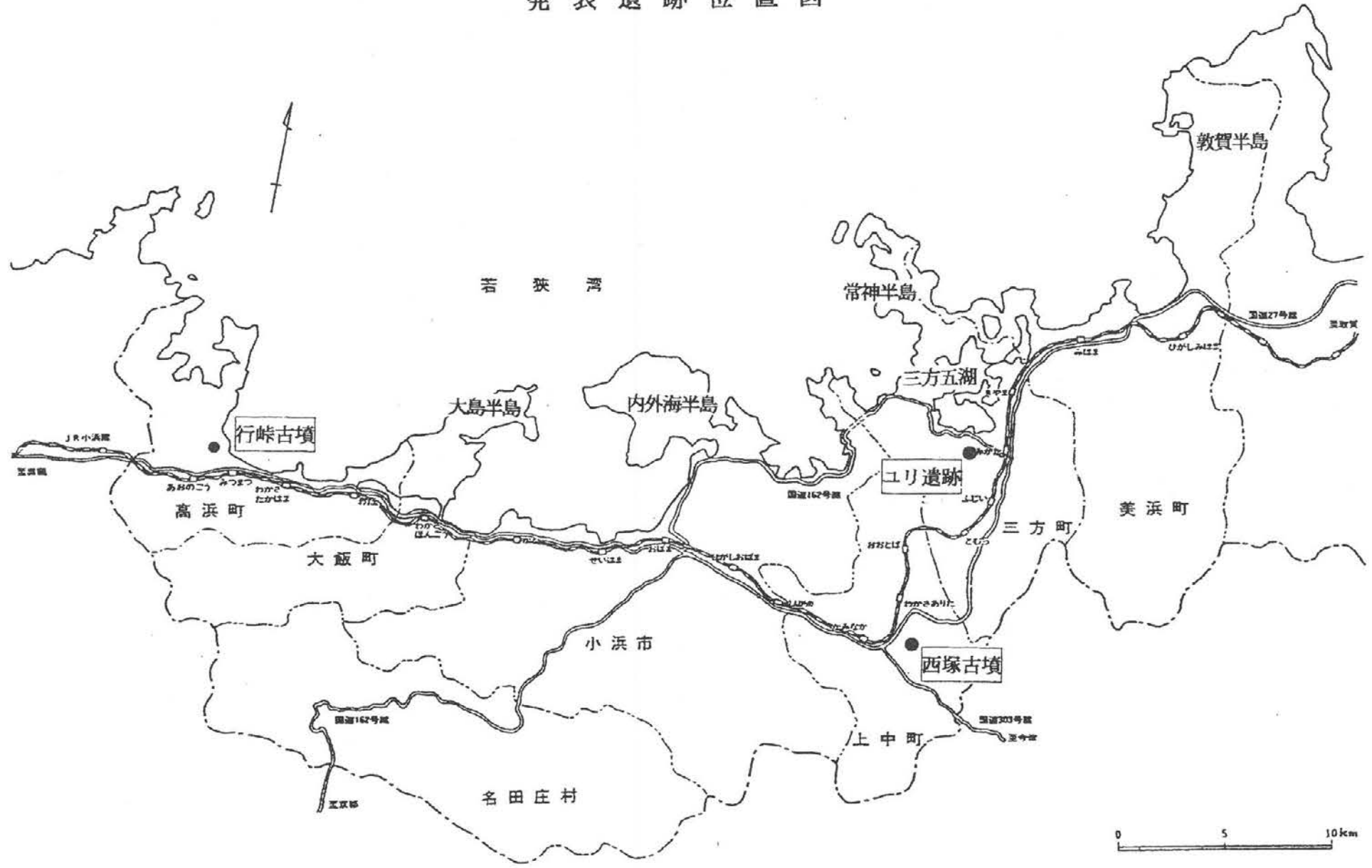
平成3年度

若狭地域における発掘調査の成果

平成4年2月23日(日)

福井県立若狭歴史民俗資料館

発表遺跡位置図



遺跡名	ユリ遺跡
所在地	弁天地区 三方町烏浜114号弁天ほか 夏浦地区 " 97号西夏浦、98号東夏浦
調査原因	県営圃場整備事業
調査期間	発掘調査作業 弁天地区 平成3年5月19日～6月18日 夏浦地区 " 6月26日～8月9日 " 10月8日～10月25日 出土遺物整理作業 平成3年11月6日～12月21日
調査主体	三方町教育委員会
調査担当者	三方町立郷土資料館 田辺常博、青池晴彦
調査面積	約480㎡(弁天地区130㎡、夏浦地区350㎡)
遺跡の時期	弁天地区 縄文時代中期～後期前半、 弥生時代後期末～古墳時代前期 夏浦地区 縄文時代早期～弥生時代後期末

〔調査の概要〕

ユリ遺跡は、鱈川流域平野部西側の高瀬川左岸域に位置し、烏浜97号西夏浦・98号東夏浦・112号友直・113号加屋・114号弁天の海拔2.0～3.0m前後の低湿田および向笠101号西夏浦・烏浜115号湯里など周辺の畑に遺跡の拡がりが見られる。

既に平成元年度に夏浦地区、2年度に弁天地区の範囲確認調査が行われており、縄文時代の丸木舟3艘をはじめとする縄文時代早期から弥生時代後期末の遺物が出土している。

今回は、範囲確認調査の結果に基づき、圃場整備が実施された際に直接遺跡に影響を及ぼす区域の田面、および山際の水路予定箇所を中心に本調査を行った。

まず夏浦地区においては、湖沼地の湖岸に想定される梅園沿いの水田で水路予定箇所の中軸を割り出し、水路に重なるかたちで幅2m・総延長約140mにわたるトレンチを設定し調査をすすめた。

層位の状況については、縄文時代後期初頭当時の湖沼底を形成していた堆積層が、1号丸木舟の出土した浅瀬から東側では徐々に深みを呈し、角礫質から微砂、シルト質へと変化していることが確認された。約40m東

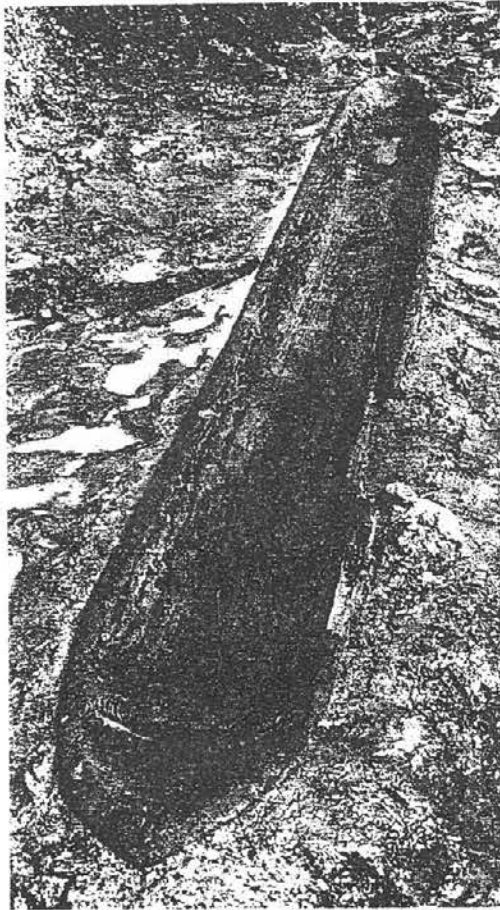
の28-1トレンチでは、海拔1.10m付近でこの層が確認されている。また28-1トレンチでは、これより上層に未分解の植物遺体が厚く堆積する層が形成されており、縄文時代晩期中葉の滋賀里Ⅲ式の深鉢や、後期末の宮滝式の深鉢、後期中葉の北白川上層式の深鉢、中期中葉の里木Ⅱ式の深鉢を包含していることから、植物遺体層の形成時期を層位的に細分することができる。

さらに、1号丸木舟出土トレンチより約50m東の28-3トレンチでは、ユリ遺跡で4艘目の丸木舟がこの植物遺体堆積層上面(海拔2.0m付近)より出土し、縄文時代晩期のもものと比定した。この丸木舟は舟ヘリの立ち上がりや舟尾を欠損しており、現存長5.87m、現存幅45cm(舟首部)～57cm(舟尾付近)を測る。舟底内面には横帯の削り出しなどはみられないが、舟底を平らにするなどこれまで出土した丸木舟とは多少異なった加工が施されている。

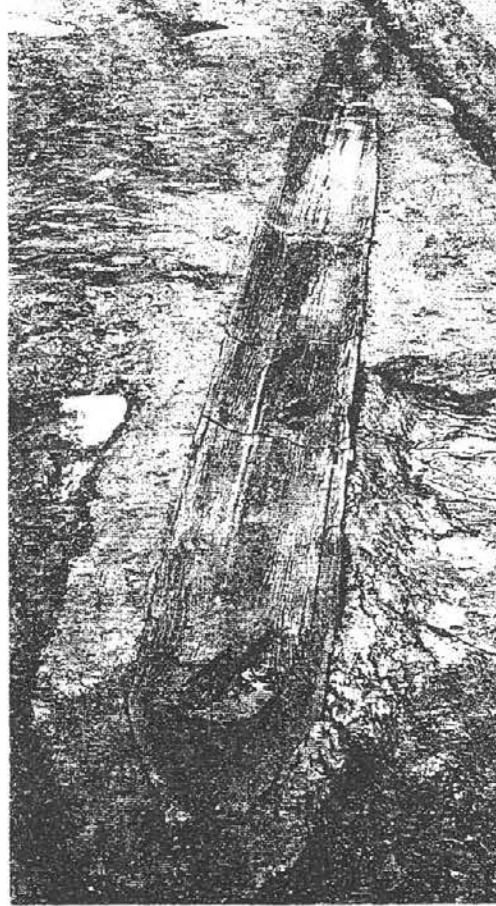
弁天地区においては、ユリ遺跡2号丸木舟出土トレンチより10m東に設定したY'Z'4・5トレンチで、現在の水田面より約20cm下の有機質粘性土層から弥生時代後期末～古墳時代前期の小型丸底壺や土錘、木製品などが出土している。



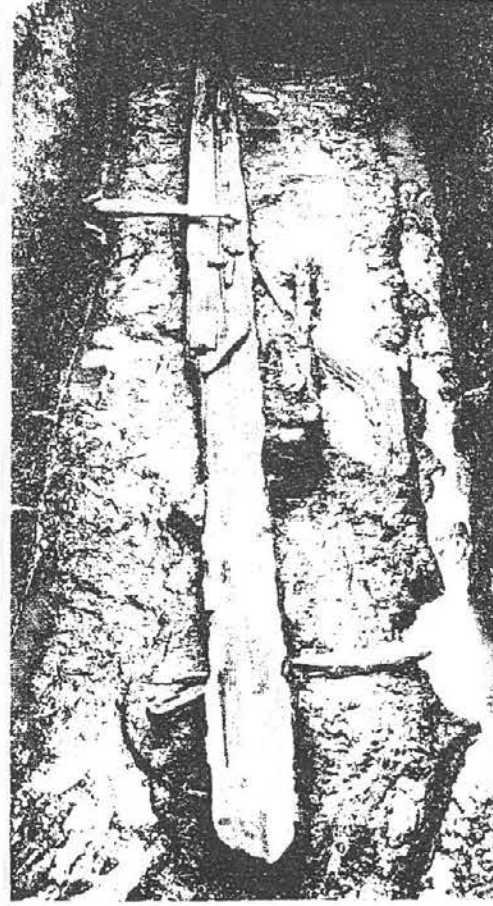
丸木舟



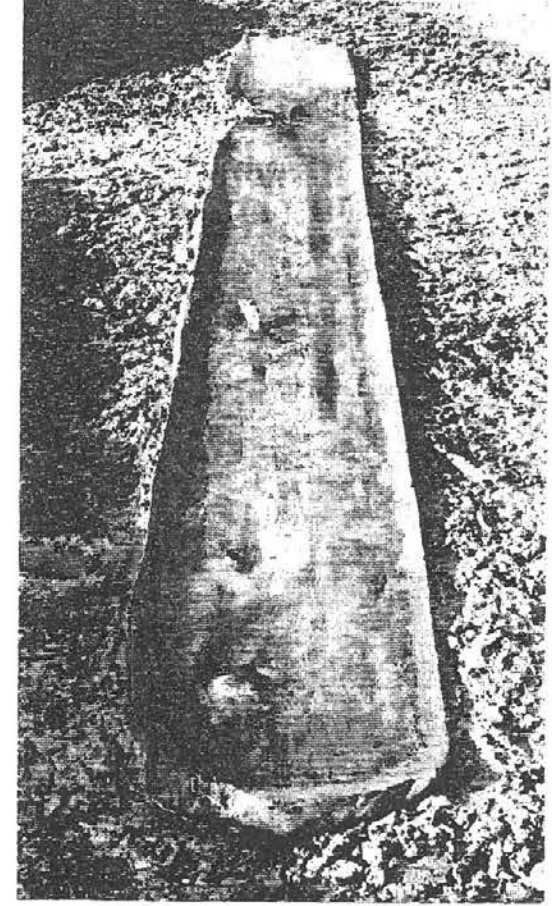
① ユリ遺跡1号丸木舟出土状況
(全長5.22m)



② ユリ遺跡2号丸木舟出土状況
(現存長4.90m)

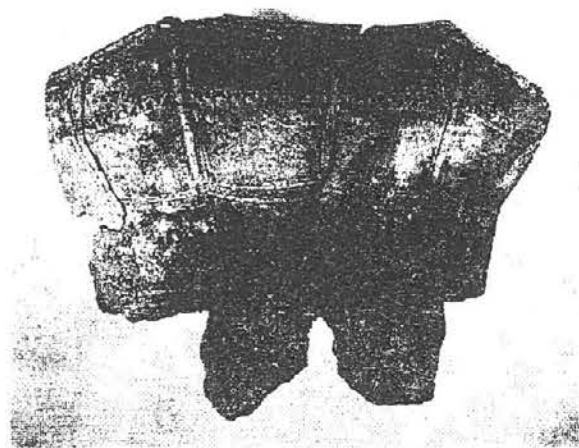


③ ユリ遺跡3号丸木舟出土状況
(現存長5.80m)

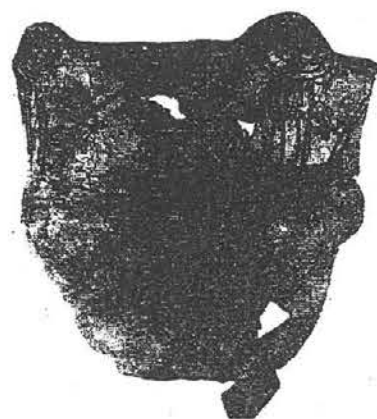


④ ユリ遺跡4号丸木舟出土状況
(現存長5.87m)

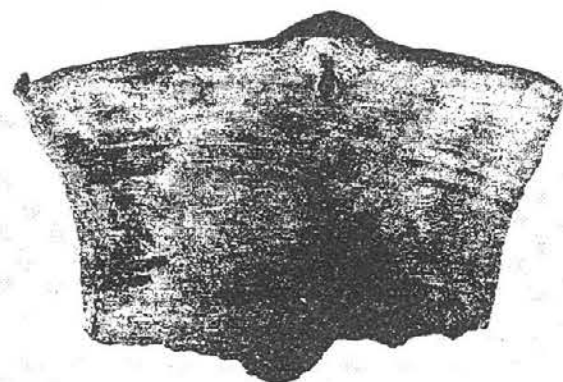
縄文土器



縄文中期土器（里木Ⅱ式）現存高 25.0cm



縄文後期土器（北白川上層式）
現存高 27.3cm



縄文後期土器（宮滝式）現存高 19.5cm

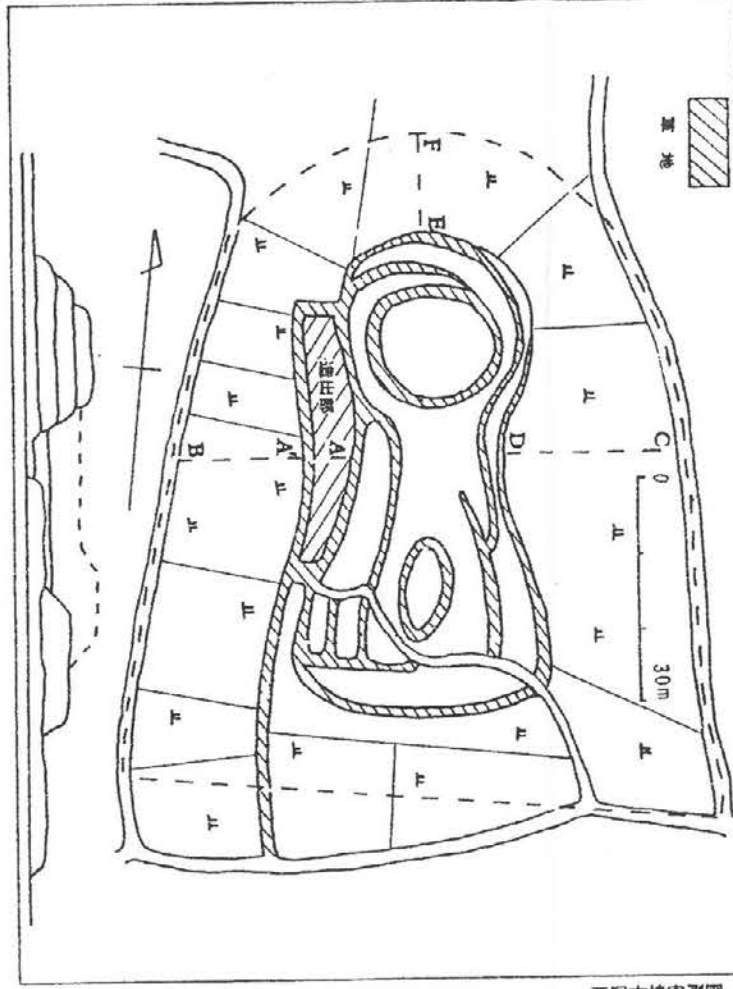


縄文晩期土器（滋賀里Ⅲ式）
現存高 30.0cm

西塚古墳

西塚古墳の調査

- 大正5年8月 鉄道小浜線軌道基礎工事の採土で石室の一部が露出。
- 大正5年10月 石室の南東隅及び南西隅より石室内部を調査。金製耳飾、鏡など副葬品が出土。
- 大正6年12月 墳丘測量調査。
- 大正7年7月 保存工事実施の際に石室内部を調査。後円部の切断面を円形に改修。
- 昭和10年12月 国の史跡に指定。
- 昭和45年8月 圃場整備事業に伴い墳丘の一部と周濠を調査。
- 平成3年11月 範囲確認調査。



西塚古墳実測図
(地籍図による)

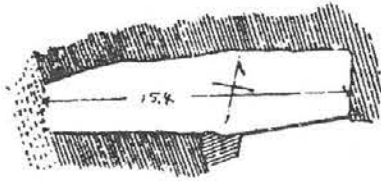
西塚古墳

上中町脇袋にある前方後円墳で、西暦480年頃に造られました。大正5年、国鉄小浜線敷設工事の採土場となり、石室の一部が露出。その際石室内部が調査されました。全長約67m。盾形の周濠がめぐります。葺石・埴輪をもち、円筒埴輪には吉備の埴輪の特徴をもつものが含まれます。埋葬施設は竪穴式石室であるといわれており、内面は赤く塗られています。副葬品は鏡・装身具、武器、甲冑、金銅製馬具ほか多数にのぼり、5世紀後半の王者たるにふさわしいものです。

なかでも権力を誇示する装身具である帯金具は、115文字の鉄剣銘で有名な埼玉稲荷山古墳のものに酷似し、西塚と同じ鏡は北部九州や吉備の首長の古墳や渡来系氏族と深い関わりが想定される古墳などから出土しています。これに金製垂飾付耳飾などの朝鮮半島製の遺品の存在を考えあわせる時、大和政権の半島経営の一翼を担った武人という被葬者の姿が浮かんできます。

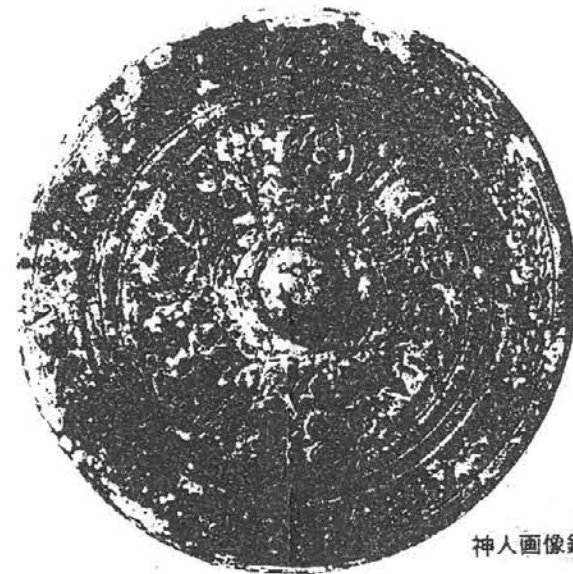
時期区分	西暦	大塚郡西部	遠敷郡(上中町・小浜市)	三方郡	製埴・土器型式
前期	300			松尾谷	土器製埴の開始 (浜瀬Ⅰ式)
中期	400	<ul style="list-style-type: none"> ●: 時期・埴形とも不明な古墳 ◐: 埴形が不明な古墳 ◑: 時期不明の古墳 ◒: 時期・埴形とも不明な古墳 	中塚 菟山 上山塚 西塚 向山1号 白鬘神社		(TK-73) 丸底製埴土器の成立(浜瀬ⅡA式) 石敷戸の出現 (TK-208) 製埴遺跡の飛躍的増大(高浜町~三方町) (TK-23) (TK-47)
後期	500	二子山3号 行峠	十善の森 上船塚 下船塚	獅子塚	製埴土器の大型化への動き (浜瀬ⅡB式) (MT-15) 石敷戸の大型化 製埴遺跡数の更なる増加 (TK-10)
	550		丸山塚	大谷	
古墳時代					

若狭の前方後円墳の編年



0 1 2 3 4 5
尺 別 比

若狭國遠敷郡上中町字物袋西塚



神人画像鏡



馬具 (鉄地金銅張鏡板)



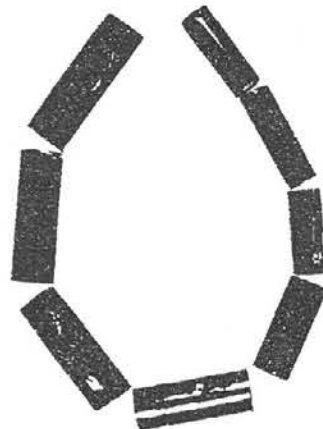
馬具 (鉄地金銅張剣菱形杏葉)

西塚古墳

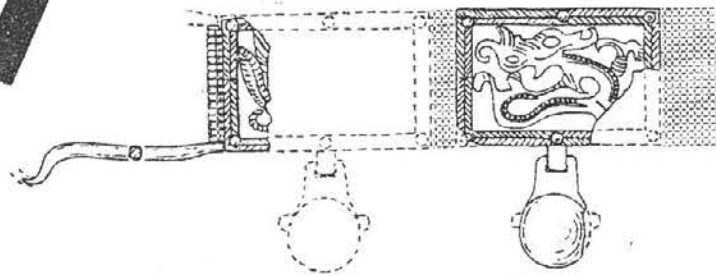
〔所在地〕遠敷郡上中町大字脇袋字野口〔墳丘〕前方後円墳 全長約67m 後円部径27m 前方部幅37m 葺石 埴輪 (円筒埴輪Ⅳ期 盾形) 周濠 〔埋葬施設〕竪穴式石室: 主軸に直交 長 5.4m 幅 1.3m 高 1.5m 〔出土遺物〕須恵器 中国製神人画像鏡1 仿製四獣鏡1 武器 (剣 鉞 鉄鎌) 武具 (眉庇付胄片 小札鉾留衝角付胄1 頸甲1 肩甲 横矧板鉾留短甲1) 馬具 (鉄地金銅張鏡板1 同辻金具2 同剣菱形杏葉2) 農工具 (鉄斧2 砥石2) 装身具 (金銅製帯金具8以上 銅鈴6 銀鈴3 金製垂飾付耳飾2 玉類) 国史跡 〔参考文献〕斎藤優『若狭上中町の古墳』1970 中司照世『Ⅳ古墳時代』『図説発掘が語る日本史3東海北陸編』1986



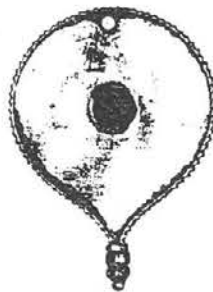
勾玉



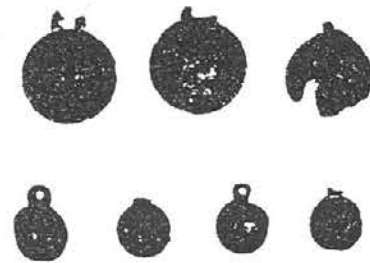
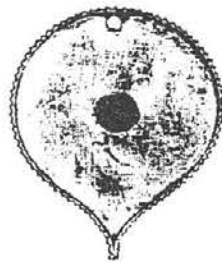
管玉



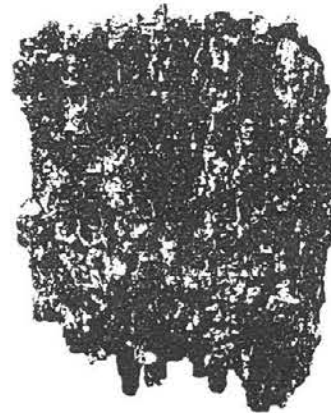
帯金具 (金銅製竜文・鳳凰文帯金具)



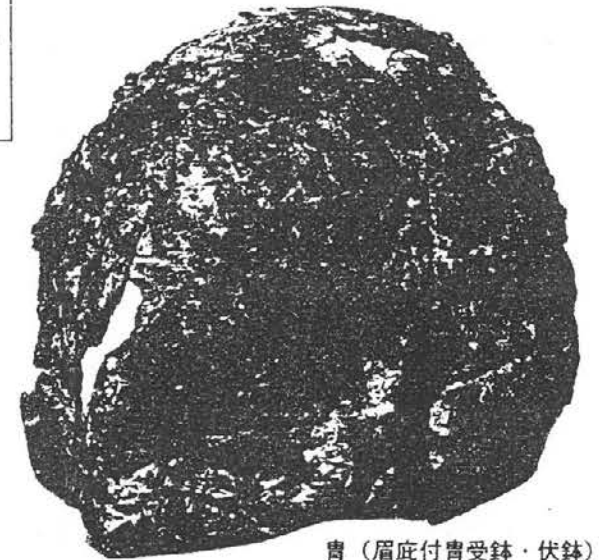
金製耳飾の垂飾



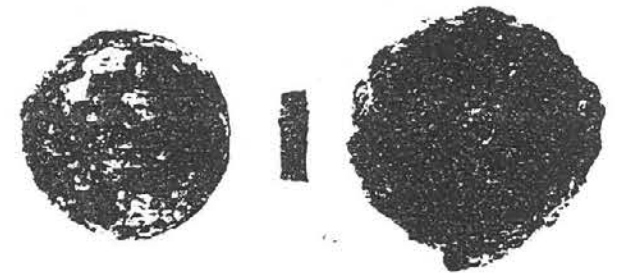
銅鈴・銀鈴



鉄鎌



胄 (眉庇付胄受鉢・伏鉢)



胄 (小札鉾留衝角付胄)

範囲確認調査の成果

〔墳丘〕前方後円墳で前方部を南に向けている。

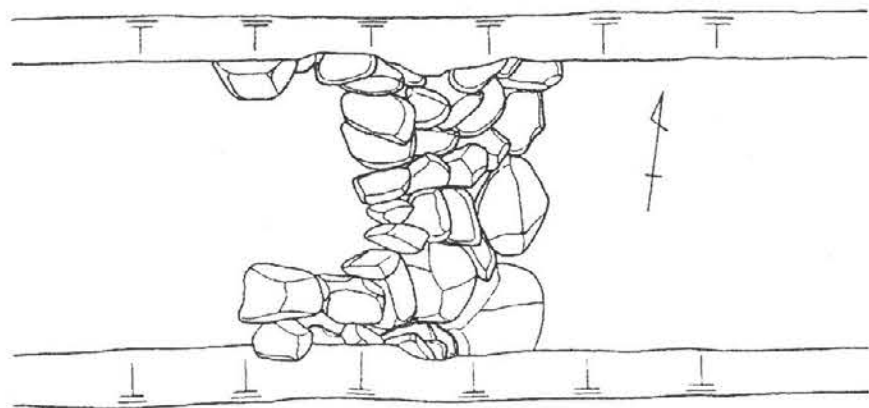
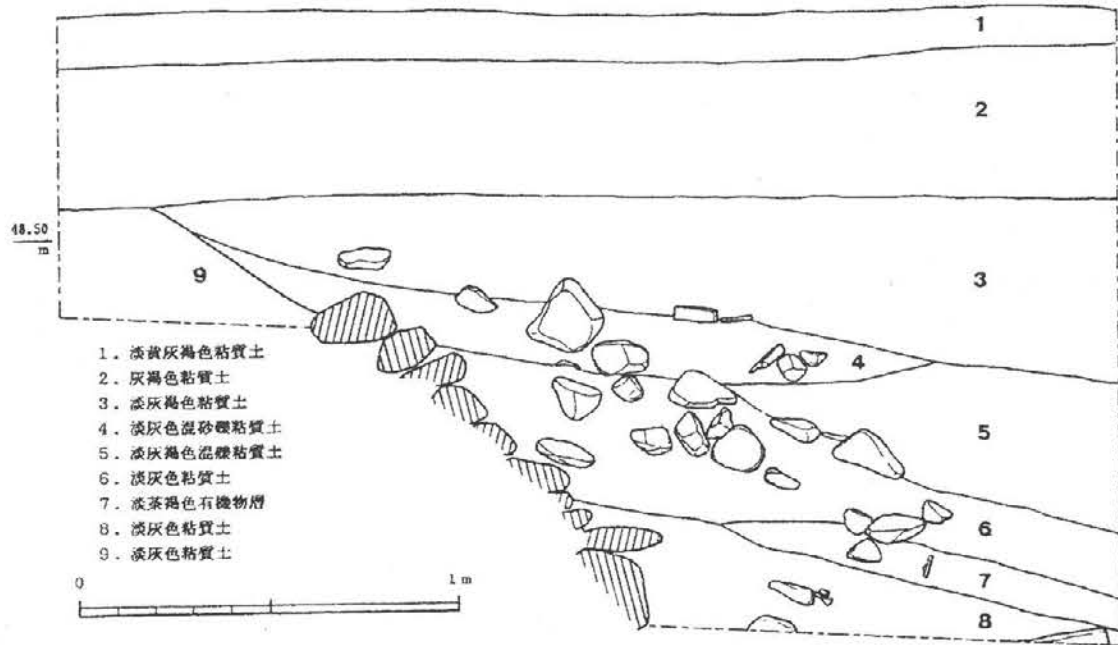
墳丘の裾はCトレンチでは葺石の基底石を、それ以外のところでは墳丘から周濠へ傾斜変換がみられたところとして、墳丘の規模を推定した。

墳長 72.5m 後円部径 35.5m 前方部幅 43.5m

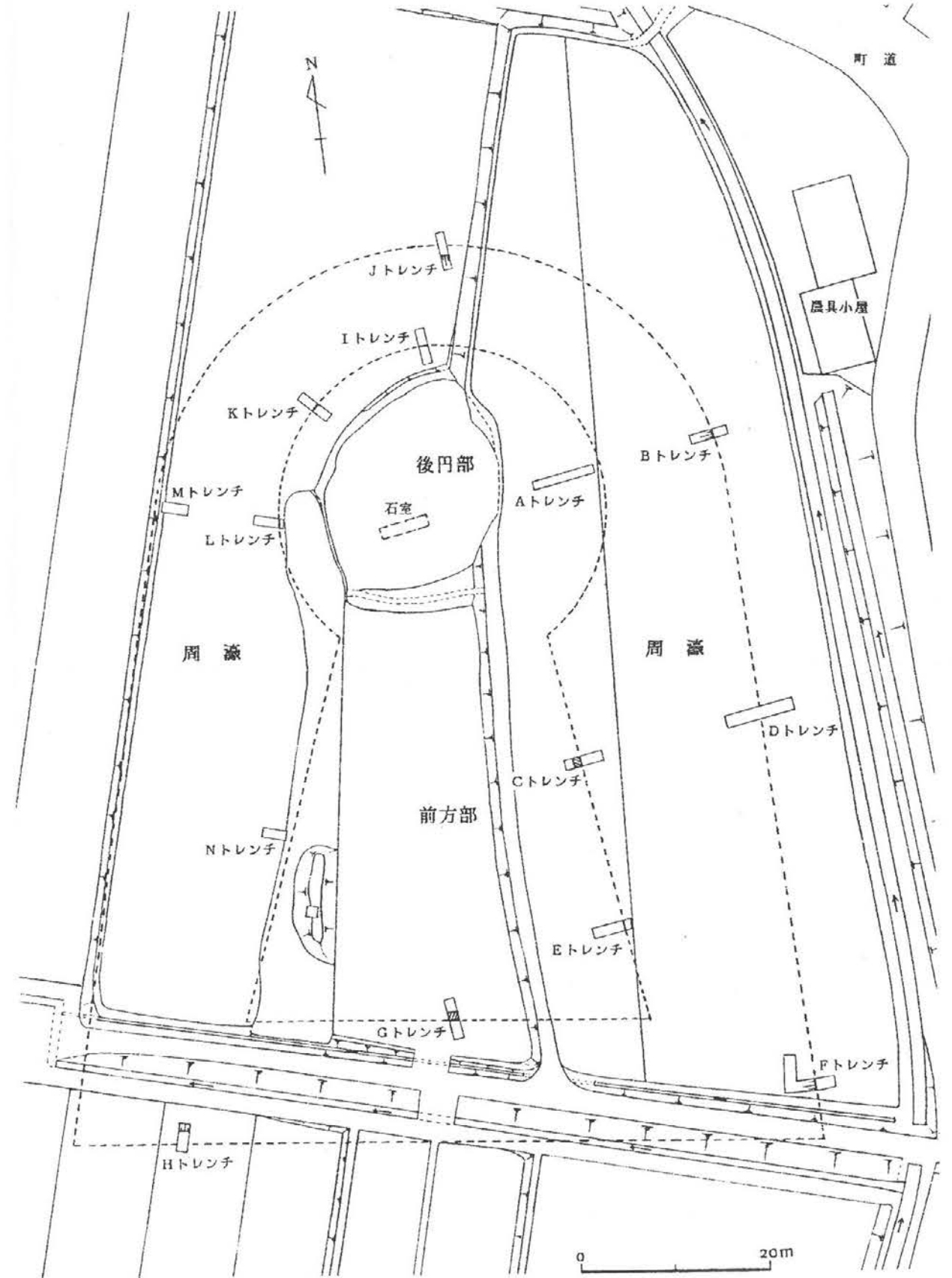
〔外部施設〕墳丘の周囲には楕円形の周濠（幅10~21m）がめぐる。

周濠を含めた古墳の総長 約97m

墳丘、周濠の北・西・南外縁に葺石・埴輪がめぐる。東側のA・B・Dトレンチを除く各トレンチで周濠に落下した葺石・埴輪を確認し、C・Gトレンチでは葺石の残存を確認した。



Cトレンチ北壁層位図・葺石平面図



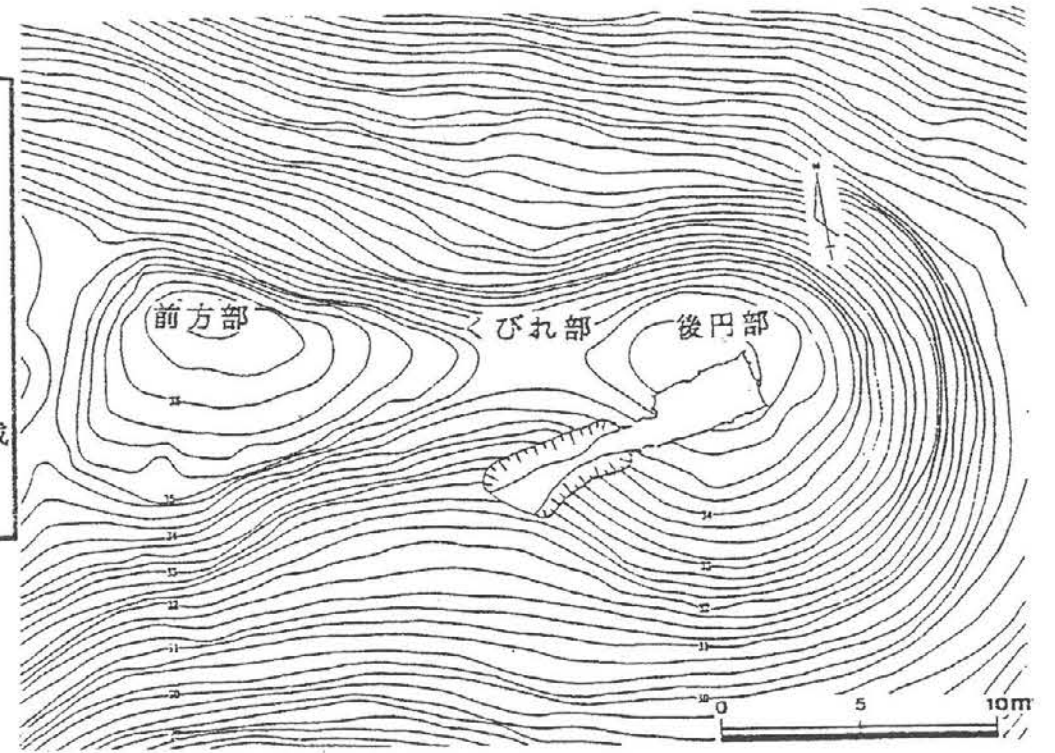
西塚古墳復原図

行峠古墳発掘調査

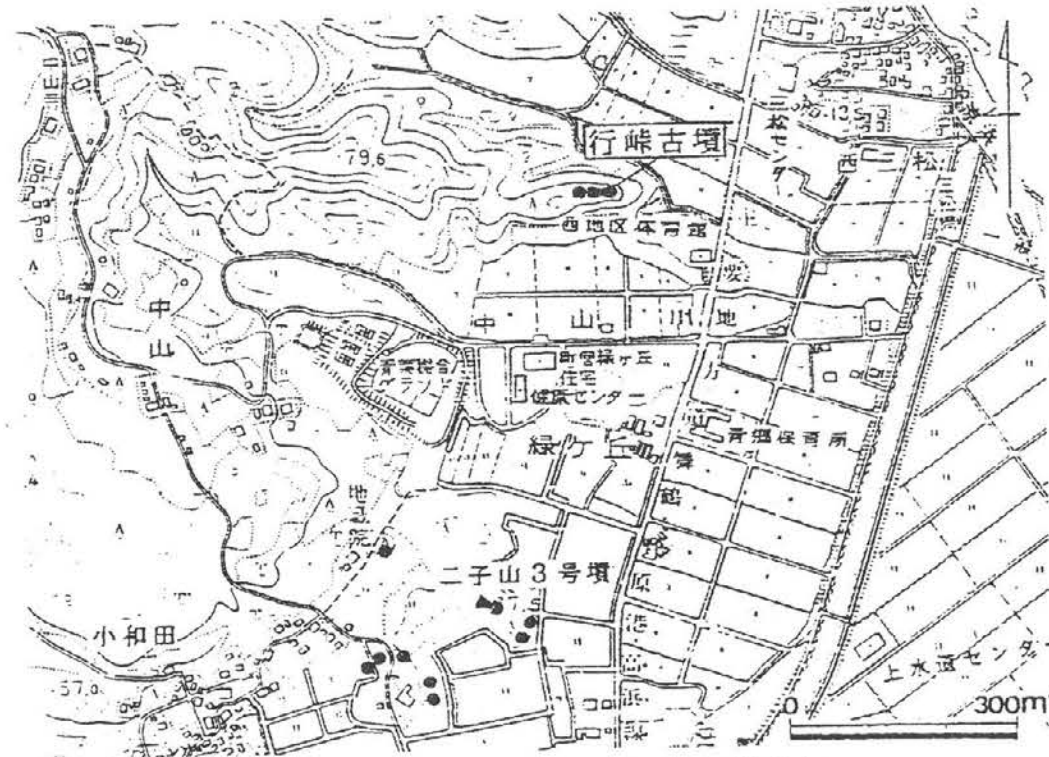
遺跡名：行峠（ゆきとうげ）古墳
 所在地：福井県大飯郡高浜町中山
 調査原因：宅地造成に伴う土取りにより、消滅の危険が生じたための緊急確認調査。
 調査目的：第1次調査 墳丘測量，電・磁気探査法による埋葬施設の調査
 第2次調査 埋葬施設の調査
 第3次調査 墳形確認調査
 調査期間：第1次調査 1990年11月
 第2次調査 1991年3月4日～6月30日（予定）
 第3次調査 1991年11月（予定）
 調査面積：65㎡（第2次調査）
 調査主体：高浜町教育委員会
 調査担当：福井県立若狭歴史民俗資料館

墳丘

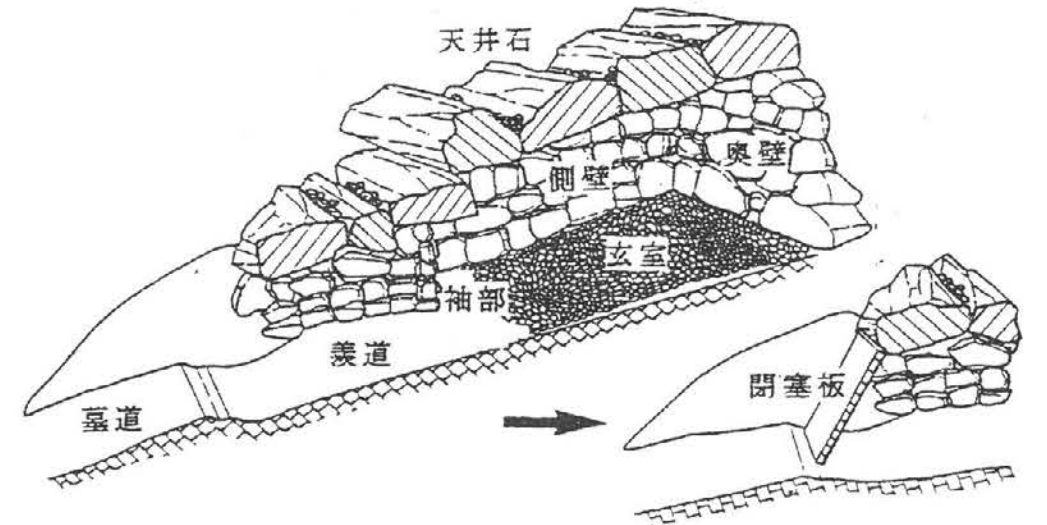
墳形：前方後円墳
 墳丘規模：全長34m 後円部径18m
 前方部幅15m くびれ部幅8m
 外部施設：段築なし 葺石なし 埴輪なし
 墳丘築成：2回に分けて築成
 A) 一次盛土——横穴式石室の被覆。
 おおよその前方後円形。
 B) 薄い腐植土層
 C) 二次盛土——墓道を含む墳丘の完成
 被葬者の生前に築造を始めたか。
 時期：古墳時代後期 6世紀前半（530年頃）



横穴式石室の位置



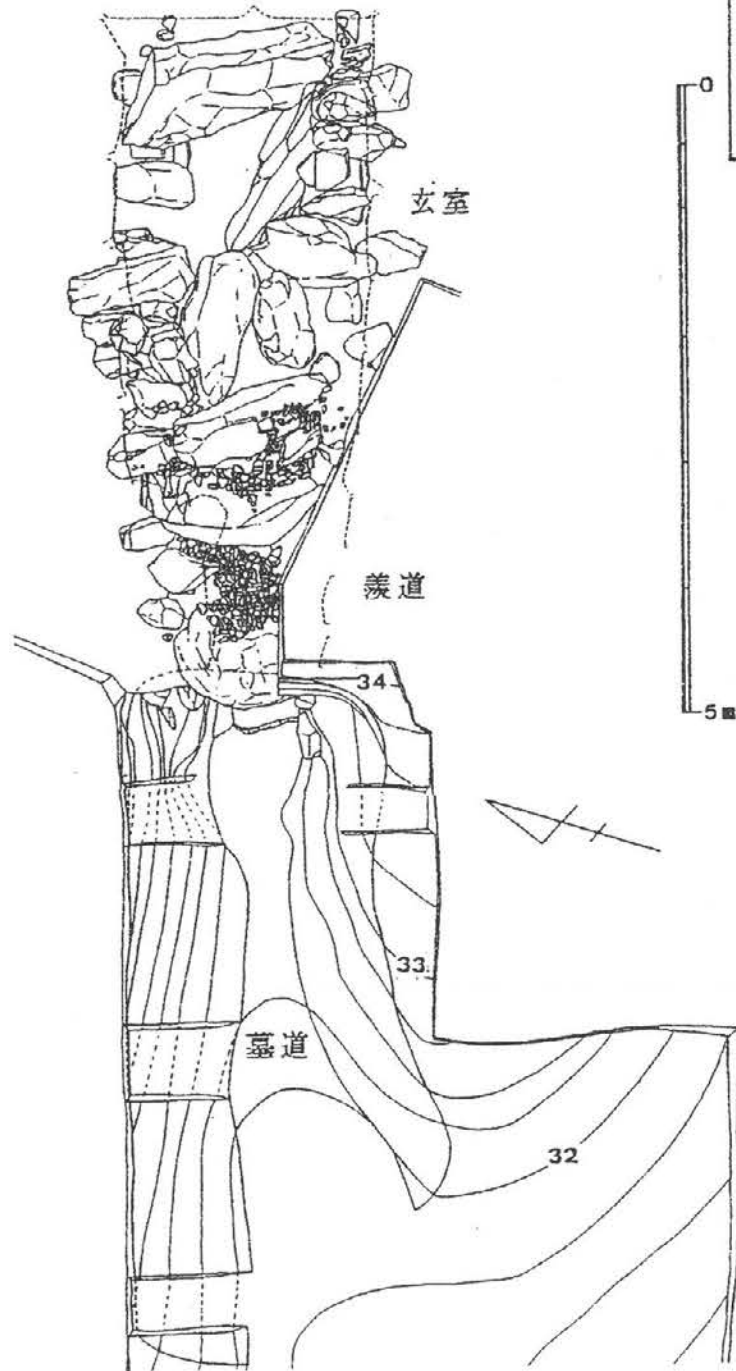
行峠古墳周辺の地形と古墳分布



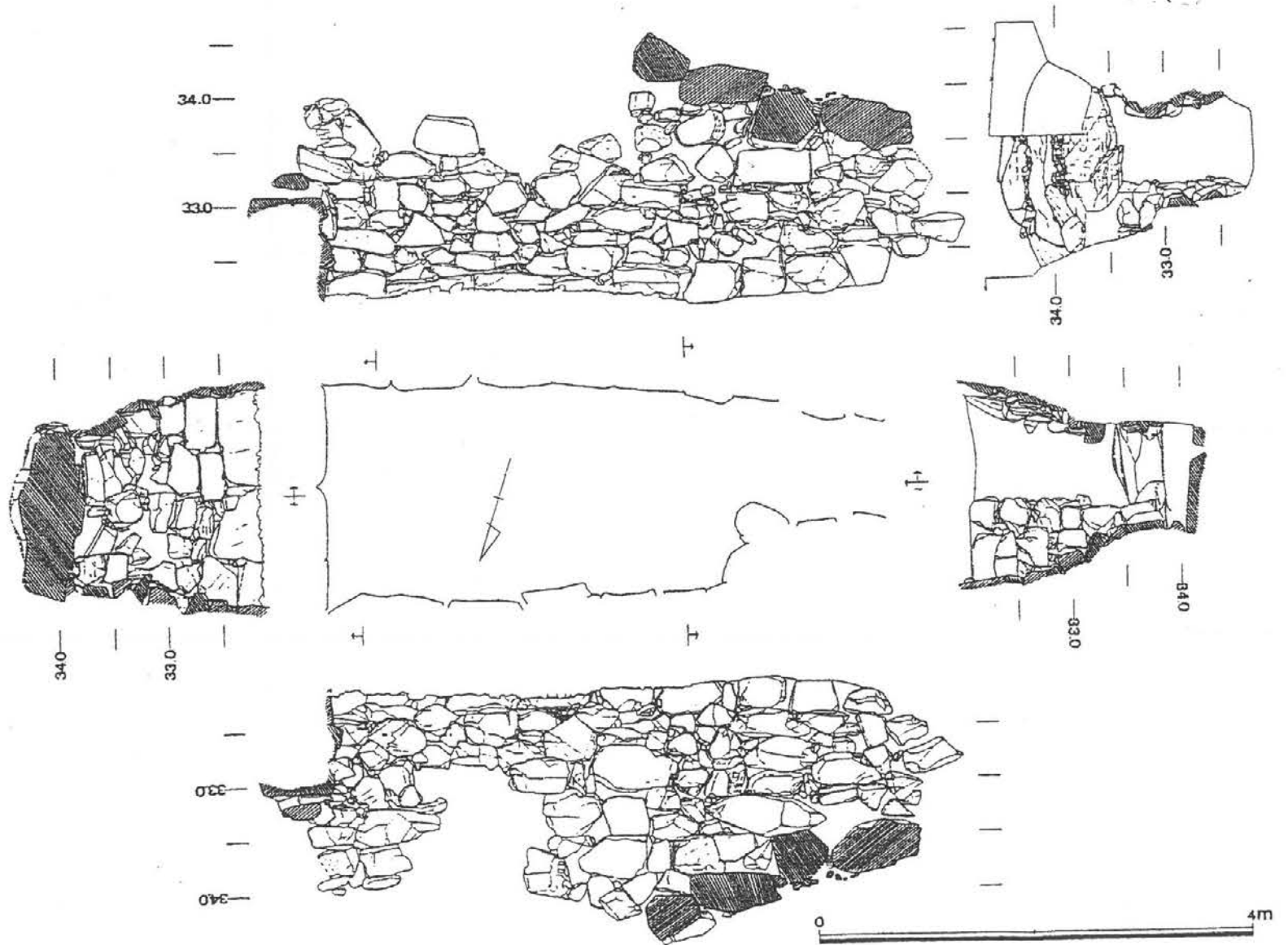
行峠古墳の横穴式石室とその閉塞方法に関する模式図

横穴式石室

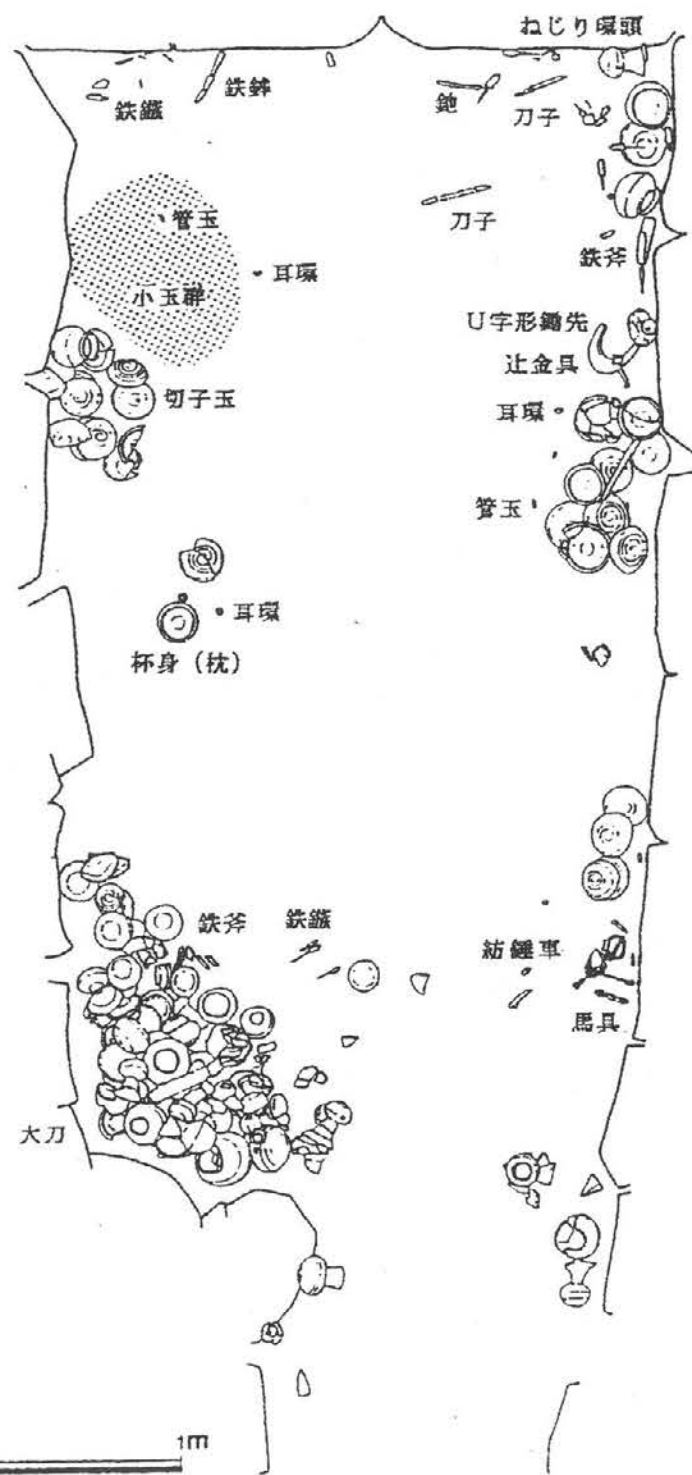
構造：短い羨道と長い墓道をもつ、右片袖式の横穴式石室。
 規模：玄室(長 3.8m, 奥壁幅 2.0m, 前壁幅 1.7m, 高さ 1.9m) 羨道(長 1.7m, 幅 0.9m, 高さ 1.2~1.8m)
 墓道(断面U字形。長約5m, 幅 0.4~0.6m。埋葬のたびに掘り返し、埋め戻す。) 閉塞方法(羨道入口を木板でふさぐ。)
 開口：くびれ部方向 (S72° W)。墳丘中段に開く羨道と墳丘裾を傾斜する墓道がつなぐ。
 検出状況：玄室および側壁の上部倒壊。未盗掘(盗掘に失敗した形跡あり)。
 埋葬：北頭位(玄室主軸に直交)。追葬時に邪魔になれば副葬品とともに遺骸も片付ける。片付け方の規則不明。墓道の掘り返し状況から、少なくとも4回の追葬が行われたようだ。最終埋葬は須恵器の杯を枕にして、頭を北に顔を西に向けて遺体を安置している。
 使用時期：6世紀中葉(TK10) ~ 7世紀前半(TK217)。小和田二子山古墳の次に首長権を受けついで人及びその家族の墓。現在、若狭最後の前方後円墳。



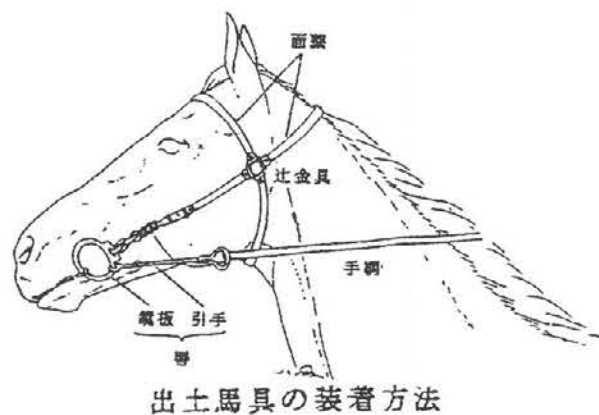
石室の検出状況と墓道



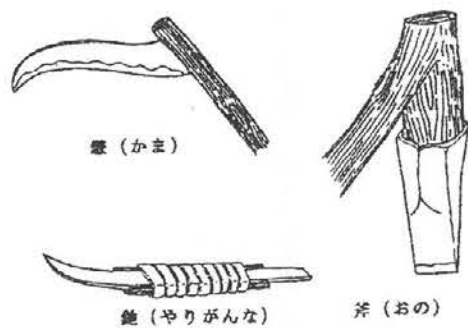
横穴式石室実測図



副葬品出土状況



出土馬具の装着方法



鉄製農工具



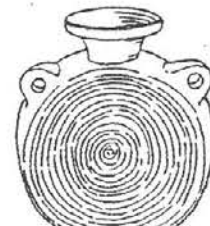
蓋杯 (ふたつき)



有蓋高杯 (ゆうがいたかつき)



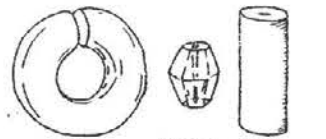
罎 (はろう)



提瓶 (ていへい)



脚付長頸壺 (きやくづくちようけいこ)



耳環 (じかん) 切子玉 (きりこだま) 管玉 (くだたま)

装身具



短頸壺 (たんけいこ)



長頸壺 (ちようけいこ)

須恵器

行峠古墳出土遺物リスト

[石室内副葬品]

(1) 土器類

須恵器：杯蓋16，杯身25，高杯（蓋2，身3），短頸壺（蓋6，身9），長頸壺5，広口壺5，有蓋脚付長頸壺（蓋1，身1），罎10，提瓶6，平瓶1など 総計91以上

土師器：椀1，壺，直口壺など 総計5

(2) 鉄製品

馬具：（轡1，止金具2）1式

武器：刀3（うち1点は装飾柄頭付），鉋1，鉄鏃30以上

農耕具：鎌2，刀子約15，鉄斧3，鋤先1，鉋1

装身具：玉類（管玉，ガラス玉，水晶切子玉，土玉など）約90

耳環5

その他：紡錘車1

供献された食物の動物遺存体（すべて蓋杯類のなかから）

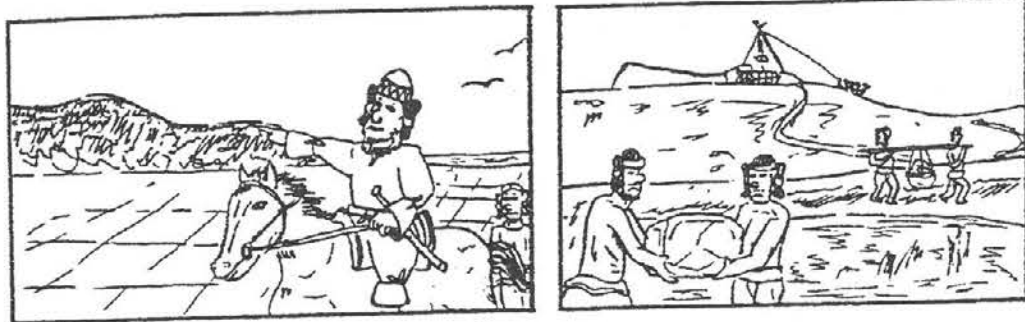
[墓道部埋土内]

須恵器：（壺，高杯など）多数

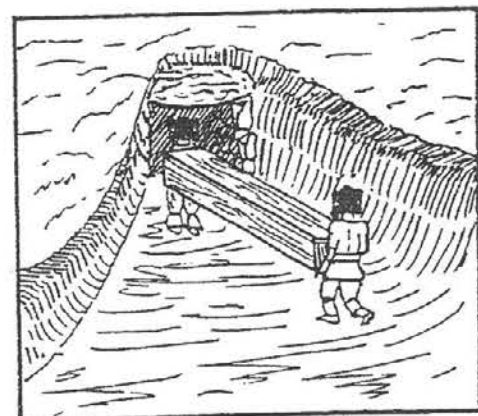
土師器：少量

装身具：管玉1

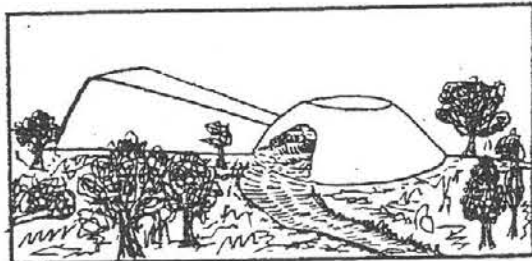
行峠古墳の歴史



この辺の王様が墓の場所を選びます。多くの人を使って古墳を造ります。



王様が死に古墳に入れられます。

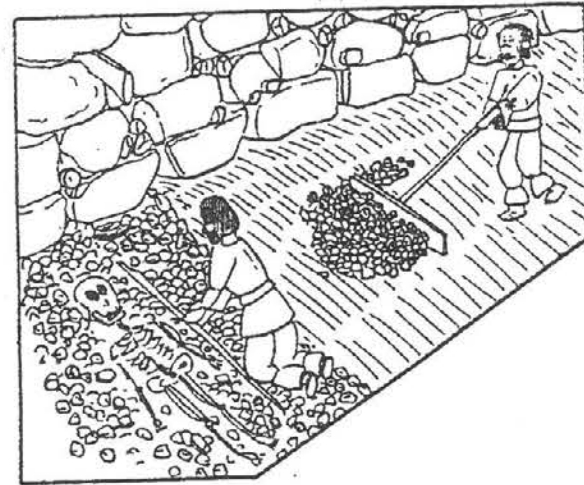


埋葬が終ると墓道を埋めてしまいます。

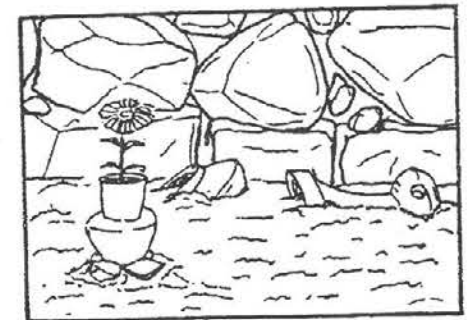
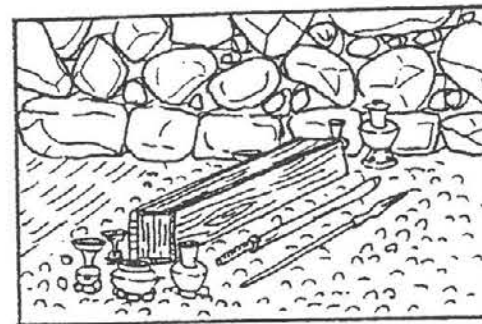
〔初葬〕

王様が死んでから数年後、
王様の家族のひとりが死にました。
王様と同じ古墳に入れるため、
再び墓道を掘り返します。

〔追葬〕



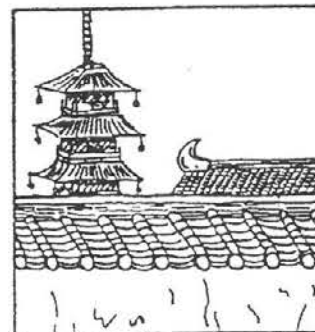
前に埋葬した遺体（死がい）や副葬品（刀や土器など）は、
追葬の時に片付けてしまいます。そして新たな小石を床に敷き、
追葬のための場所を作ります。



追葬の時もいろいろな副葬品が
並べられます。

3回、4回と追葬は進み、同じ
ようなことがなされます。そして
とうとう最後の追葬が行われます。

〔最終埋葬〕



そのころ日本の都では、お寺が
造られ始めます。王者のシンボル
は古墳から壮大な寺院に変わって
いくのです。